

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：市場ポケット保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：丸尾拓也	定員（利用人数）：60名（57名）	
所在地：〒230-0025 横浜市鶴見区市場大和町3-18		
TEL：045-642-8861	ホームページ： http://ichibapocket.com/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成28年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：有限会社KBC		
職員数	常勤職員：14名 非常勤職員：8名	
専門職員	（専門職の名称） 名 栄養士：1名	
	園長：1名 調理師：1名	
	主任：1名 調理補助：1名	
	保育士：14名 看護師：1名	
	管理栄養士：1名 事務員：1名	
施設・設備の概要	（居室数） （設備等）	
	保育室：6室 園庭：有（屋上庭園）	
	トイレ：5ヶ所	
	調理室：1ヶ所	
	事務室：1ヶ所	

③ 理念・基本方針

保育方針：子どもたちひとりひとりの個性に寄り添いながら認め、褒めて考えて、共に成長を喜ぶ

保育理念：保護者、園職員、地域の方々ほか、皆で見守る優しい環境作りを大切に、まるでポケットの中のようなぬくもり溢れる温かさと安心感を提供出来るよう心掛け、地域に根付いた子育て支援を目指していく

保育目標：

- ①ひとりひとりの個性を尊重し、その個別の状況に応じたきめ細かな子ども支援と家庭支援
- ② 心と体の健康を大切にし、情緒豊かな人間関係の構築
- ③「良く食べ、良く遊び、良く眠る」 基本的な生活習慣の確立

④施設・事業所の特徴的な取組

園は鶴見市場駅から徒歩1～2分程度と市街地へも近い環境です。保育室からは京急線を見ることができ、日頃から子どもたちは電車が停車・通過するたびに大喜びです。また近くには大小様々な公園や鶴見川が流れており、緑豊かな環境で子どもたちは伸び伸びと保育園生活を送っています。また近隣には小学校、中学校、コミュニティセンターなど様々な施設があり、季節行事やお散歩時のご挨拶などで、日頃から親

しくさせていただいております。子どもたちの健やかな成長のために、地域に根付いた安心・安全で開かれた園運営を心掛けております。そういった環境の中、以下の取り組みをおこなっています。

・屋外活動の充実…熱中症アラートをはじめとする各種気象警報に十分留意しながら、天気の良い日には毎日のように戸外活動へでかけます。子ども本来の情緒豊かな心の形成、健やかな体の成長にとって、お日様の光を沢山浴び、沢山の自然に触れながら、元気よく戸外で遊ぶことはとても大切なことです。「いってきます!」「いってらっしゃい!」近隣にお住まいの方々に見送られながら元気一杯、戸外活動へでかけます。また目的地の公園では他園の子どもたち、地域の子どもたちとも仲良く遊ぶことができます。目的地へ向かう道中では、交通ルールを学び、目的地の公園ではみんなと仲良く遊ぶための、マナーやお約束事を学びます。子どもたちの自然な意欲である「遊び」の経験を通して、成長する上で必要な社会的なマナーやルール、そして思いやりの気持ちを自然に「学ぶ」ことができるよう心掛けています。また秋には提携農園での「芋ほり体験」も行っており、食べることの大切さを成長を通して、子どもたちは学んでおります。

・ダンス教室（無料）の実施・・・パパイヤ鈴木氏プロデュースのセイハダンスアカデミー外部講師によるダンスプログラムを実施しています。（3歳～）子どもたちは色別のマットを使用して元気良く体を動かして、体操やダンスの楽しさを学んでいます。中学校体育では男女ともダンスが必須化され、小学校の指導要領にも「表現運動」としてダンスが組み込まれました。子どもたちは実に9年間のダンスを学ぶこととなります。その礎となれるよう、保育園生活でも少しずつダンスを取り入れていきます。何よりも体を動かしながら学ぶことは、子どもたちの成長にとって大切なことです。

・学研教室（授業料無料）の実施・・・学研教室の外部講師による勉強指導を月2回、保育室内で行おこなっています。（4歳～）就学に向けた知識を少しでも子どもたちが補えるよう、保育園生活でも少しずつ、勉強に対する意欲を高める取り組みを行っております。

・食育活動への取り組み・・・子どもたちの体の成長において沢山食べることは勿論、大切ですが、心の成長において「食」と接することも大切なことです。食育活動の一環として、自園の管理栄養士による、食育指導（食べ物と栄養のお話、厨房見学、食材と触れ合うなど）や、クッキング保育、自家菜園も同時に行っています。自家菜園では種まきから、水やり、観察、収穫、実際に食べる経験を行っております。また、秋には提携農家での「芋ほり体験（3歳～）」も行っています。子どもたちは日々の保育園生活で、自身の成長とともに自然に食の大切さを学んでいます。

・ほけん活動の実施・・・自園の常駐看護師による、ほけん活動を定期的に行っています。はみがき指導や手洗い指導、系列園3園の看護師が綿密に年度のカリキュラムを計画し、ほけん活動を日々の保育に取り入れ、子どもたちへの自然な健康・衛生管理への意識づけを心がけています。職員向けの保健研修へはなお一層、重点を置き「嘔吐処理研修」「AEDを用いた救急救命研修」「救護活動のシミュレーション」など本項目では挙げきれませんが、保健研修をカリキュラム化し徹底しております。また、保護者向けの「ほけんだより」も定期的に発行し、病気の基礎知識、衛生対策の豆知識、救護対応の方法など、その時の情勢・環境にあった内容を沢山盛り込んでおります。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年1月23日（契約日）～ 令和5年11月7日（評価結果確定日）
--------	---------------------------------------

受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2019 年度）
---------------	---------------

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1) 充実した保健活動

子ども達の健康管理に関する活動は各年齢に応じ指導計画に盛り込まれています。園には常勤看護師がおり、看護師による保健活動が大変活発に行われています。手洗い指導や歯磨き指導などは看護師が中心となって集会を行い、絵ボードを使うなど工夫して子どもにも分かりやすく説明し伝えています。毎月の保健便りは写真入りやカット入りで見やすく発疹のケア、脱水等の情報もタイムリーな内容を載せており好評な取組です。職員内部研修では定期的に救護に関する研修や嘔吐処理研修などが行われます。活発な保健活動や衛生管理は保護者からの満足度も高く保育の充実に繋がっています。

2) 子どもの安全確保のための取組

毎月実施している災害を想定した避難訓練は、地震、火災、防犯、子どもの置き去り、不審者など多岐に渡っています。全員で中学校に避難する訓練や、また火災時には町内会館に避難するなど自治会とも連携しています。不審者訓練は事前に職員に知らせず、サプライズで行うこともあり、職員の対応力の向上に努めています。置き去り訓練では、公園に園児を置き去りにしてしまった想定です。園児に扮した職員が迷子のように移動する中で訓練を実施し、もしもの場合に備えています。どの訓練でも実際の状況を想定し、緊張感を持って取り組み、有事に備えています。

3) 「期待する職員像」をより明確に

職員は毎月の自己評価と年度ごとの5項目の目標設定を行っています。目標は園長と職員のコミュニケーションのもとで設定されています。園長は上期、下期に職員と面談を行い、設定した目標の進捗状況や達成度の確認をし、フィードバックしています。職員の状況に応じて随時相談に乗る体制も作っていますが、園の理念と基本方針を踏まえた「期待する職員像」をより明確にすることで、目標管理や保育の質、職員モチベーションの向上に繋げていくことが期待されます。

4) 保護者意見の把握の工夫

保護者との日々のやり取りは送迎時をはじめ連絡帳、懇談会、必要に応じて個人面談等があります。その他苦情相談窓口を設け、担当者、相談方法、連絡窓口を入園時に伝えて、玄関にも掲示して意見や相談を受ける体制は出来ていますが、まだ十分生かされていません。今後苦情意見カードの用意や意見箱の設置、更にアンケートの実施等で保護者の苦情や意見が出しやすくする環境の工夫が望まれます。現在年1回行事後の感想アンケートは実施していますが、日々の保育全般についてのアンケートを実施し、保護者の生の声を保育に生かしていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度、開園から7年目で2度目の第三者評価を受審いたしました。

2回目の受審でしたので、1回目の評価結果から成長できている点、まだまだ成長が必要な点などを、職員全員が再認識・共有できる、とても有意義な機会となりました。

日々の保育の中で、職員全員が与えられた自己評価表に対して、個人の考えを持ち寄り、計画的に話し合いに取り組むことは、なかなか大変なことではありましたが、第

三者評価の意味や意義を理解した上で、話し合いをの場を設けることができたので、
ともて意欲的に取り組むことができました。

「話し合う＝率直な意見を共有する」ことは、何よりも園の現状を皆で認識できる機会となり、同時に職員1人1人が自身の振り返りや、今後あるべき姿を考える機会にもなります。それは、園の将来像を職員全員で思い描き、目指すべき道筋を共有することへと繋がっていきます。

目指すべき目標に向かって、「考える・話し合う・共有し行動する」この過程が何よりも大切なことです。

大切な幼少期。

子どもたち1人1人にはそれぞれ個性があります。成長のスピードもそれぞれです。それぞれの個性に寄り添い、心と体の成長を優しく支える。私たちには大切な役割があります。

子どもたちの健やかな成長のため、子どもたち1人1人が主体性をもち、伸び伸びと過ごせる園運営をこれからも心がけてまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり